豊玉二中だより

令和２年度　第４号
発行日　７月８日(水)
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　神山　信次郎

才能の芽

校長　神山　信次郎

６月に授業を再開して１か月が過ぎました。まだ、感染予防に配慮しながらの生活ではありますが、生徒たちは学習、委員会活動、部活動とできることを精一杯取り組み、それぞれ自分の可能性を少しずつ広げようとしています。この流れを大切にして日々目標をもって頑張ってもらいたいものです。

どのような状況に置かれても、皆さんがもっている可能性の芽をさらに伸ばし、大人に成長したときには、その可能性を開花させ、社会の中で活躍してほしいと、保護者、先生方は願っています。それは学校の教育活動の最終の目的でもあります。

生徒の皆さんは、「才能」という言葉を耳にしたことがあると思います。この言葉の意味は、「物事を巧みに成しうる生まれつきの能力」ということです。スポーツ・歌を唄う・絵を描く・文章を書く能力など、人間のもつ能力は様々です。そして、その「能力」は誰にどれだけ備わっているのかは、まったくわかりません。おそらく、生まれつき備わっている能力であっても後天的な要素によって大きく左右されるものと思われます。つまり、「才能」と言われるものは生まれつき備わった能力が、その人の育つ環境や生き方によって磨かれ、「優れた力」として発揮されるようになったものだと考えられます。

「自分には才能がない」と思い込んだり、自分の能力不足に悩んだりしている人も、実は多くの才能を素質のまま自分の内側に眠らせているのかも知れません。そして、何かのきっかけで、その一つが芽生え、その後の努力で素晴らしい才能の持ち主になるということも多くあるのです。

一人ひとりの内側に眠っている才能がいつか芽を吹き、大きな花を咲かせることができるように、今できることは、様々な活動の場面に参加して自分を試してみること、失敗を恐れず精一杯取り組んでみることではないでしょうか。そこで、人より少しだけ努力するのが辛くなくて、人より少しだけ簡単にできるものを見つけてみましょう。そこに皆さんの才能が隠れているはずです。それが見つかったら、それを大切にしていきましょう。そうすれば必ず道は開けていくはずです。皆さんの挑戦と頑張りに期待しています。